

平成28年度

運営に関する計画

平成28年4月

大阪市立野田中学校

大阪市立野田中学校 平成 28 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

※現状と課題※

平成 25 年度実施の全国学力学習状況調査結果では、国語 A・B、数学 A・B ともに全国及び大阪府に及ばなかったという現状がある。そこで次の点を課題として捉え、課題克服に向けて組織的に取り組んでいく。課題《授業規律の確立》→授業方法工夫改善、《家庭学習の充実》→宿題の量や点検方法の工夫、《主体的意欲的な学習》→グループ学習を通じた他を尊重する姿勢・視点の育成、である。

平成 27 年 4 月 以下を追記

平成 26 年度実施の全国学力学習状況調査結果では、全国平均には及ばないものの、全て大阪市平均を上回ることができ、平成 25 年度と比較して、大幅に改善することができた。

ここ数年における授業規律の確立とともに、平成 25 年度の結果から生じた危機感を教職員が共有したことが平成 26 年度における改善結果につながったと考えられる。

しかしながら、生徒への指導内容・方法については個々人の教員に依存するところが大であり、平成 26 年度の好結果が一過性のものとなる危険性がある。学力の向上に向け、家庭学習や補講など現状の指導内容・方法を改めて見直したうえで、学校全体及び各学年において、確立した指導体制との進捗管理を行うべく、組織的な対応が求められる。

また、平成 26 年度実施の全国学力学習状況調査における生徒質問事項について、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」、「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の項目における肯定的な回答が、全国平均と比較して大きく見劣りする状況にある。この傾向は、平成 27 年 4 月に校内で実施した「年度当初生徒アンケート結果」にも顕著に表れており本校の教育目標に掲げる「『生きる力』の育成」を実現するうえで、「仲間とともに学び合う」ことをテーマとする取り組みを強化していく必要がある。

※中期目標※

【視点 学力の向上】

「全国学力・学習状況調査」等の結果から、自ら学び自ら考える力を持ち、基礎的・基本的な内容が確実に定着したと認められる生徒の割合を、平成 24 年度の水準より向上させる。

(カリキュラム改革関連)

平成 27 年 4 月 以下を追記

- ・「全国学力・学習状況調査」、「大阪市統一テスト」及び「大阪府チェレンジテスト」の結果が大阪府立高等学校入学者選抜において重要な位置づけとなるから、各調査・テストを念頭に学力向上に向けた施策を見直し校内の支援体制を拡充する。

(カリキュラム改革関連)

- ・学力向上の根幹となる授業において、ICT や外部教材を活用して生徒の理解度を高めるための授業づくりを推進する。

(カリキュラム改革関連)

- ・「全国学力・学習状況調査」及び「年度当初生徒アンケート結果」から判明したように、生徒の主体的かつ協働的な学習活動が不十分である。キャリア教育の観点から区・地域・企業との連携をもとに、課題の解決に向けて生徒が意見交換やグループワークを行い、その結果を発表するプログラムを策定し「仲間とともに学び合う」ことの意義を体験学習させる。この学習形態を推進する上で、校内において使用頻度の低い施設（特別教室等）の見直しをすすめ、協働学習に有効な施設（アクティブ・ラーニング空間）を新たに設置することで生徒の意識を高め学習効果をより確実なものとする。

さらに、このアクティブ・ラーニング空間を利用して、教科の授業や学校行事の準備などにおいて生徒が意見交換・グループワーク・結果発表を実践できる学習機会を設けていく。

(カリキュラム改革関連、マネジメント改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

「全国学力・学習状況調査」等の結果から、基本的生活習慣・規範意識が定着し、感動する心をもつている生徒の割合を、平成24年度の水準より向上させる。 (カリキュラム改革関連)

平成27年4月 以下を追記

- 平成27年4月実施の「年度当初生徒アンケート結果」の中で、「社会の仕組みや地域のできごとに関する心がありますか」に対して、肯定的な回答が約半数（「よく当てはまる」は20%以下）であった。区・地域・企業と連携した学習活動を通して、規範性とともに社会への関心を高めていく。 (カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

運動の習慣や基本的な生活習慣を確立し、生涯にわたって自らの心身の健康を管理する能力を獲得させる。 (カリキュラム改革関連)

2 中期目標の達成に向けた28年度目標

【視点 学力の向上】

- I. 28年度実施の「大阪市統一テスト」（3年生）及び「大阪府チャレンジテスト」（1～3年生）の結果において、それぞれ大阪市及び大阪府の平均点を上回ることを目標とする生徒支援体制を構築する。 (カリキュラム改革関連)
- II. I C Tの活用など生徒にわかりやすい授業づくりに努め、28年度末に実施する生徒アンケートにおいて、「授業はわかりやすいですか」（27年度末の肯定的回答74%）、「先生は授業中の教え方を工夫していますか」（同回答82%）を、各々27年度末よりも各々5%引き上げる。 (カリキュラム改革関連)
- III. 27年度取組んだ外部との連携による課題解決型の協働学習を定着させるとともに、アクティブラーニングを取り入れた授業を推進し、生徒の主体的かつ協働的な思考・行動や表現力の養成に努める。28年度末に実施する生徒アンケートにおいて、「授業中、自分の意見を積極的に発表することができますか」（27年度末の肯定的回答35%）、「授業中、学級の友達の意見や考えを知りたいと思いますか」（同62%）、「授業中学級の友達と話し合い、自分の考えを深めたり意見にまとめたりする機会はありますか」（同75%）を、各々5%引き上げる。 (カリキュラム改革関連、マネジメント改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

27年度末（2月）に実施した、道徳心や社会性に係る「生徒アンケート結果」は以下の通りで、（ ）内の数値は、肯定的な回答（「よく当てはまる」、「やや当てはまる」）の合計値である。道徳教育・キャリア教育の推進により、28年度末の「生徒アンケート結果」において各々5%引き上げること（②③以外の項目）を目標とする。 (カリキュラム改革関連)

- ①「登校したときは元気よくあいさつできていますか」（75%）
- ②「身だしなみや時間など学校のルールを守っていますか」（94%）
- ③「学校の施設や備品を大切にしていますか」（96%）
- ④「社会の仕組みや地域のできごとに関する心がありますか」（56%）
- ⑤「将来、どのような仕事につきたいとか、どんな大人になりたいとか、将来に夢や目標はありますか」（73%）
- ⑥「自分が少しでも何かの役に立っていると感じることはありますか」（51%）
- ⑦「自分が頑張ったことを学級の友達や先生、家族の人はわかってくれていると思いますか」（65%）
- ⑧「学校の友達や家族への思いやりを大切にできていると思いますか」（87%）
- ⑨「友達がいじめなど、間違ったことをしていると思ったとき、注意できていますか」（64%）

【視点 健康・体力の保持増進】

I. 自らの身体の健康及び身体能力を、自ら知り・管理し・進化させる方法を身につけ、生涯に亘って健康に留意できる意識を身につけさせる。 (カリキュラム改革関連)

II. 保護者との連携のもとで、規則正しい食習慣や早寝早起きの習慣等を身につけさせ、基本的生活習慣の確立を目指す。 (カリキュラム改革関連)

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立野田中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標通りに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>I. 28年度実施の「大阪市統一テスト」(3年生)及び「大阪府チャレンジテスト」(1~3年生)の結果において、それぞれ大阪市及び大阪府の平均点を上回ることを目標とする生徒支援体制を構築する。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>II. ICTの活用など生徒にわかりやすい授業づくりに努め、28年度末に実施する生徒アンケートにおいて、「授業はわかりやすいですか」(27年度末の肯定的回答74%)、「先生は授業中の教え方を工夫していますか」(同回答82%)を、各々27年度末よりも5%引き上げる。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>III. 27年度取組んだ外部との連携による課題解決型の協働学習を定着させるとともに、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を推進し、生徒の主体的かつ協働的な思考・行動や表現力の養成に努める。28年度末に実施する生徒アンケートにおいて、「授業中、自分の意見を積極的に発表することができていますか」(27年度末の肯定的回答35%)、「授業中、学級の友達の意見や考えを知りたいと思いますか」(同62%)、「授業中学級の友達と話し合い、自分の考えを深めたり意見にまとめたりする機会はありますか」(同75%)を、各々5%引き上げる。 (カリキュラム改革関連、マネジメント改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
I の取組内容	
① 小テストの反復実施による生徒の意欲向上、宿題の工夫・提出の徹底管理を通して家庭学習の定着。【区分 自主学習習慣の確立】	
指標 生徒アンケート「家で勉強していますか」の引き上げ (27年度末の肯定的回答67%)	
②外部人材（学びサポーター、学校元気アップ事業）の活用による、生徒の弱点補強と校内で自主的な学習ができる環境の整備。【区分 習熟度別少人数授業の充実、自主学習習慣の確立】	
指標 生徒の参加数	
③学年ごとの長期休業中の補講、自主学習会等の開催。【区分 自主学習習慣の確立】	
指標 各施策の実施日数・回数、生徒の参加数	

IIの取組内容

- ① 生徒の興味、関心を高めるべくタブレットを活用した授業の実践と、タブレットの機能や活用方法についてのICT研修会の開催。

【区分 ICTを活用した教育の推進】

指標 タブレットを活用した授業と研修会の実施回数

- ② 授業力向上のために、校内教員相互の授業見学と、その後の授業研究会の開催。

【区分 授業研究を伴う校内研修の充実】

指標 授業見学・授業研究会の実施回数

- ③ 27年度末において「中学校の授業が難しい」とアンケート回答した1年生が多かったことを課題と捉え、小中教員相互の授業見学・研究による連携強化。

【区分 小中一貫した教育の推進】

指標 小中連携した学習指導計画の研究会開催実績と学習指導計画の策定

IIIの取組内容

- ① グループワーク、ディスカッションやプレゼンテーション等を組み込み、「生徒が主役」となりうるアクティブラーニング授業、協働学習の発展拡大と学習環境の充実。

【区分 言語力や論理的思考能力の育成】

指標 アクティブラーニングを取り入れた授業の実施回数と生徒アンケート

- ② 区、地域及び企業等との連携による課題解決型の協働学習の実施定着。

【区分 言語力や論理的思考能力の育成】

指標 外部連携先や生徒によるアンケートの満足度調査

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立野田中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標通りに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>27年度末（2月）に実施した、道徳心や社会性に係る「生徒アンケート結果」は以下の通りで、（ ）内の数値は、肯定的な回答（「よく当てはまる」、「やや当てはまる」）の合計値である。</p> <p>道徳教育・キャリア教育の推進により、28年度末の「生徒アンケート結果」において各々5%引き上げること（②③以外の項目）を目標とする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>①「登校したときは元気よくあいさつできていますか」(75%) ②「身だしなみや時間など学校のルールを守っていますか」(94%) ③「学校の施設や備品を大切にしていますか」(96%) ④「社会の仕組みや地域のできごとに関心はありますか」(56%) ⑤「将来、どのような仕事につきたいとか、どんな大人になりたいとか、将来に夢や目標はありますか」(73%) ⑥「自分が少しでも何かの役に立っていると感じることはありますか」(51%) ⑦「自分が頑張ったことを学級の友達や先生、家族の人はわかってくれていると思いますか」(65%) ⑧「学校の友達や家族への思いやりを大切にできていると思いますか」(87%) ⑨「友達がいじめなど、間違ったことをしていると思ったとき、注意できていますか」(64%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 道徳教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教員の道徳公開授業と勉強会の開催により、授業方法の研究・改善を図る。 道徳の授業のみならず、様々な学校行事さらには各教科の授業や課題解決型学習活動におけるアクティブ・ラーニング、協働学習の取組を通して、自己有用感や人を思いやる大切さについて生徒の理解を高める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 28年度末「生徒アンケート結果」による上記目標を達成すべく、道徳公開授業・研究会の開催実績 	
<p>取組内容②【区分 人権を尊重し、豊かな人間性を育む教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年ごとの平和学習、国際理解学習、車イスバスケットボール地域親善交流会や芸術鑑賞・文化発表会に取り組み、鋭い人権感覚、豊かな人間性を育てる。 教職員間の情報共有を徹底することで、生徒間の事案未然防止と早期解決に注力する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 28年度末「生徒アンケート結果」による上記目標を達成すべく、各施策の取組実績 	
<p>取組内容③【区分 キャリア教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 27年度に導入した1年生職業講話+2年生課題解決学習+3年生高校出前授業の流れの定着を図り、協働学習を通した生徒間の「思いやりの心」を一段と育み社会についての学びを深める。 	

- ・また、多様な協働学習を通して生徒に様々な「気づき」の機会・場面を与えられるように、新たな学習活動についても研究し取り組む。

指標

- ・28年度末「生徒アンケート結果」による上記目標を達成すべく、3年間を通したキャリア教育の定着と、新たなキャリア教育の導入。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立野田中学校 平成 28 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標通りに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 健康・体力の保持増進】 I. 自らの身体の健康及び身体能力を、自ら知り・管理し・進化させる方法を身につけ、生涯に亘って健康に留意できる意識を身につけさせる。 II. 保護者との連携のもとで、規則正しい食習慣や早寝早起きの習慣等を身につけさせ、基本的生活習慣の確立を目指す。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
I の取組内容【区分 体育的活動の充実】 ・各学年×年 2 回の球技大会を行うとともに、体育大会の事前取組内容を充実させることで、体力・運動能力向上への意識を高める。 ・区役所との連携で外部よりスポーツ関連のゲストティーチャーを招聘し、運動の楽しさを生徒に理解させ持続的に運動する意識を高める。	
指標 平成 28 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における 8 種目の平均値を、男女ともに大阪市を上回ること。	
II の取組内容①【区分 健康な生活習慣の確立】 ・27 年度の「食生活に関するアンケート」から生徒の規則正しい食習慣には保護者の理解・協力が不可欠であることが明確になっている。「食育通信」・「保健室便り」の月に 1 回発行に加えて、PTA との連携の上で保護者向け説明会の開催を計画する。	
指標 ・「食生活に関する生徒アンケート」において、朝食を食べる日数について毎日及び週 6 日以上とする回答を、27 年度実績値 76%より 5%以上高めることを目指す。	
II の取組内容②【区分 健康に関する現在的課題への対応】 ・保健の授業に加えて、外部講師を招聘した「薬物乱用防止教室」「携帯安全教室」を学年に応じて年に 1 回は開催し、健康的な生活に向け指導の充実を図る。 ・PTA との連携により、生徒の安全に係る保護者向けの各種説明会の開催を計画する。	
指標 28 年度末「生徒アンケート結果」において、「スマホや携帯、テレビゲームなどをするとき、家の人と約束事がない」との回答について 10%以下を目指す。 (27 年度末実積値 27%) そして、日常を通じ、触法行為をする生徒、巻き込まれない生徒を一人も出さないことを最終目標とする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点